

座長コメント

(1) トンネル掘削に伴う水資源へのリスクと対応について

○ リスク及びその評価、リスクへの対応について、前回会議での指摘を踏まえた議論を行い、表現の適正化や内容の深度化が図られた。

○ このうち、有識者会議委員や静岡県から指摘のあった詳細モデルによる断層付近のトンネル湧水量等の把握については、JR東海から、高速長尺先進ボーリングによるトンネル湧水の水量や水圧、化学分析等で得られるデータを用いて判断していくことが示され、有識者会議としても実施していくよう指示した。

なお、断層付近の突発湧水として、現在想定されている水量等については、その考え方について整理の上、次回提示するようJR東海に対して求めた。

○ 今後、リスクへの対応を具体化するにあたっては、静岡県を含めた関係者と調整が必要となるが、JR東海においては、利水者等の不安や懸念を払拭するため、モニタリング結果の適切な提示も含めて、専門家や地域のご意見等を十分に踏まえながら、丁寧でわかりやすい説明を行うよう要請した。

(2) 大井川水資源利用への影響の回避・低減に向けた取り組みについて

○ JR東海から、これまでの有識者会議での指導等を踏まえた「大井川水資源利用への影響の回避・低減に向けた取り組みについて（素案）」が示され、本日の議論も踏まえ、利水者等にとってわかりやすい資料にするための努力を引き続き行うよう指示した。

(3) 水資源問題に関する中間報告（素案）について

- 前回会議での指摘を踏まえ、今回、事務局より提示された「水資源利用に関する中間報告（素案）」について議論し、次回会議に向けて以下の方向で整理するよう指示した。
  - ・ 有識者会議では、大井川の水資源に関する大きな2つの論点について、科学的・工学的な観点から議論を行ってきた現時点での結論を明確にする。
  - ・ 有識者会議として何をJR東海に指示し、何が新たに明らかになったのかがわかるようなまとめ方にする。
  - ・ 冒頭の「主なポイント」では、何が有識者会議でわかったのかを簡潔にとりまとめる。